

学長からのメッセージ

「創立 140 周年を記念して」

今年がお茶の水女子大学にとって、そして皆様にとりましてよい年になりますようお祈り申し上げます。

初秋のある晴れた日に東京女子高等師範学校を卒業された先輩のお一人が学長室を訪ねて下さいました。女高師で受けた教育がいかに素晴らしいものであったか、どれほど役立ったかについてご自身の経験をもとにご説明くださり、その教育に対する感謝のお気持ちを伝えにいらしてくださったのです。

また、やはり女高師の卒業生で、奨学金の授与式に遠路お出でくださったお一人は、女高師で培われた知識を活かして現在でも教育に携わっていること、学生には是非とも充実した学生生活を送ってほしいと思っていることを穏やかに語って下さいました。その話に聞き入っていた学生の真剣な表情は強く印象に残っています。

女高師のその教育は本学の教育基盤となり、歴史を経て、本学の社会的評価を確かなものとしてきました。

今年 2015 年は、本学創立 140 周年の記念すべき年に当たります。

本学の創始である東京女子師範学校は、日本で初めての女性のための高等教育機関として 1875 年に設置されましたが、設立の趣旨は次のようなものでした。

「女子の教育が男子と優劣の差が生じることのないよう女子師範学校を設ける」(文部少輔による太政大臣宛設立建議書[明治 7 年 1 月]を受けての布達)

その後、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校等と名称を変えつつもその教育理念は貫かれ、それぞれの時代にふさわしい教育体制を整え、高い専門性をもって社会をリードする女性を育成し続けてきました。

女高師の教育が女子教育の必要性に対する強い認識の下になされてきたことは、卒業生の会である桜蔭会が関東大震災の翌年に新たな女子教育の場として桜蔭学園を創設したことに顕著です。2011 年 3 月の東日本大震災から今年で 4 年目を迎えますが、被災地の現状から考えても、当時の卒業生の実行力と使命感に心打たれます。それだけではなく、女高師の卒業生の中に高等教育機関の設立にかかわった人々が多いことも本学が創設以来の使命を確かに果たしてきたことの証しといえます。また、教育だけでなく研究の分野においても、女性研究者として先駆的な役割を果たしてきた方々は多く、保井コノ博士、黒田チカ博士、辻村みちよ博士、湯浅年子博士等はその象徴です。

創設から 74 年後の 1949 年、本学は新制大学のお茶の水女子大学に、さらにその 55 年後、2004 年には国立大学法人お茶の水女子大学となりました。

法人化の際に掲げたミッションは、「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」というものです。

法人化後 10 年が過ぎましたが、法人化によって大学は自律的な運営と時代の激しい変化への迅速な対応が求められるようになり、それに対して本学では教育体制を新たに整えてきました。例えば、社会的課題に対して多領域か





10月28日開催「ダイバーシティ・リーダーシップ -4大陸の駐日女性大使を迎えて-」(平成26年度A-wiL国際シンポジウム)

ら探究する方法を学ぶ「21世紀型文理融合リベラルアーツ」教育や、専門の学び方を学生自らが選択する「複数プログラム選択履修制度」などです。これらは、「深い教養」と「広い専門性」を身につけるための教育システムです。この制度で学んだ最初の学生達がこの春卒業します。近い将来、本学で学んだ学生達が社会の中核を担い、この教育の成果が顕わになることを期待しています。

今、女性の社会的な活躍が重視されていますが、これからは今まで以上にグローバルな視点をもってリーダーシップを発揮する専門性の高い能力が必要です。本学の卒業生は教育や研究の分野に限らず、自ら起業し、あるいは企業の管理職に就いて国際的にも活躍していますが、さらに女性が活躍できる環境を整えることは現在の国立の女子大学としての重要な役割です。

そこで、本学では近年とくにグローバル教育とリーダーシップ教育に力を入れてきました。平成27年度に、この実績を活かして新たに「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設置します。この機構はグローバルリーダーシップ研究所とジェンダー研究所から成ります。さらに、奈良女子大学と共同で、大学院に理工系の専攻を設置する準備を開始いたしました。この専攻では新たな工学の在り方を開拓し生活の視点を活かすことのできる工学系の専門家の育成を目指します。どちらも、この時代に国立の女子大学が果たすべき役割として、昨年文部科学省から承認されたもので、創立140周年を機に本学の将来に一つの道筋をつけることになりました。

昨年から、創立140周年記念事業を開始し、「海外留学支援奨学基金」と「附属図書館の増築」を目的とする募金事業も行っています。

本学の学生アンケート調査によれば、海外留学を希望している学生の割合はきわめて高く約7割にもなります。そこで、海外留学のための経済支援として設置したのが海外留学支援奨学基金です。また、附属図書館の増築は、図

書資料の集中化によって利用の利便性を高めることと、図書館をこれまで以上に交流の場として充実させることを意図しています。

この基金によって本学の教育環境はこれまで以上に充実し、その環境で学んだ学生がその成果を今後社会に還元して行くことと信じています。

大学は、社会とともにあることを常に意識している必要があります。本学では「共にあること」を基本的な姿勢としてきました。そして今本学には「コモンズ」と名のつく空間が4か所できています。まず、附属図書館の改装によって他大学に先駆けてLearning Commonsを創り、2011年には新学生寮Students Community Commons (SCC) を新設しました。このどちらも特徴的な機能を備え、他大学の先駆けとなったモデルとして注目されました。さらに2014年にはLanguage Study CommonsとInteractive Commons (Ocha-Hall) が開設されています。これらは、大学が社会と共に、他者と共に、他の文化と共に在り、共に発展することを象徴する空間でもあり、この理念がこれからも生き続けることを願っています。

そして、本学で学んだ学生には、140年の伝統に裏付けられ、社会と共にあり続けてきた本学の教育を教授されたことを自らの力として社会で活躍されることを確信しています。

お茶の水女子大学の卒業生のご活躍を期待し、本学が国立の女子大学としてさらに発展することを心から願っております。

創立140周年を迎え、本学の未来がさらに輝かしいものとなりますように。

2015年春

国立大学法人 お茶の水女子大学長

羽入 佐和子

学長からのメッセージ
「創立140周年を記念して」